

しばらく、ご無沙汰しております。バックスがお浄土へたたれてから、早 2 ヶ月にもなりました。今頃は光り輝くお浄土の世界で、どのように我々を眺めておられるかな〜? などと、夕焼け空に映える巻雲を見ながら娑婆から連絡が取れないもどかしさを感じております。

さて、過日はバックスが好んでお呑みになっていたと言う素晴らしいお酒を頂き本当にありがとうございました。

この喉越しのよいお酒、どのように頂こうかと数日思案していました。そこで 10 月 8 日の朝、カラリと晴れ上がった鈴鹿山脈を見て、よし!! 今から藤内壁を覗いて見よう……と急遽思い立ち<越路吹雪>と盃マスを持ち、久方振りに藤内壁を訪れました。

その日は天気快晴なれど猛烈な突風で、当初は前尾根の櫓を上から下り、櫓の岩の上で藤内壁を俯瞰しながら一献を傾けてみたかったのですがとても無理と判断。結局、藤内の取り付きのテストストーンの上で<一の壁>を見上げながらバックスの魂と二人で盃を酌み交わすこととしました。

家から用意して行ったガラスコップにローソクを立て突風を避けながら岩壁を見上げ、過去数十年に亘って微妙なバランスであらゆるルートの登攀を指示して頂き、ロッククライミングの真髓を味わうことが出来たことにより、私の人生に《勇氣》を埋め込んで頂いたそのご恩にしばしの間感謝の念で、美酒で喉越しを潤しながら懐かしさにひたりました。

その後お釈迦様の『遺言の経』と云われている舍利弗という弟子に「お浄土を見なさい」「お浄土を見せてやろう」と説かれている『仏説阿弥陀経』を一巻勤行し、満ち足りた気持ちで山を下りることが出来ました。

私はバックスから私の人生の礎となるダイヤモンドを頂いたと思っています。このダイヤはどれだけお金を積んでも頂くことが出来ないものです。今後はこのダイヤに磨きをかけ十方の衆生、社会の為に精進して

いきたいと思っています。

本当にありがとうございました。

平成 18 年 10 月 17 日

感謝 佐野 孝

—佐野様からアルバムを
いただきました。
その中からの抜粋です—



バックス一献
美酒の喉越しを味わう



佛説阿弥陀經を勤行成俤を祈る



吟醸酒を供之
バックスを偲ぶ